

News Release

2021年4月16日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2021 年 3 月 4 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF、持続可能な農業を実現するイノベーションパイプラインを拡充

- 継続的な研究開発の成果を生産者、環境、社会に提供
- 種子、農薬、デジタルサービスでより持続可能な農業ソリューションを実現
- ピーク時の売上高は 75 億ユーロにのぼる見通し

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は生産者が抱える環境保護や経済的な課題の解決を支援し、消費者の持続可能な方法で生産された食品へのニーズに応えるため、持続可能な農業のためのイノベーションを創出する研究開発活動を強化します。今後 10 年の間に市場に投入される農業向けソリューションのパイプラインは、持続可能性(サステナビリティ)に貢献する農業ソリューションの売上シェアを毎年 7%増加させるという目標*1の達成を後押しします。2030 年までに 30 を超える大型研究開発プロジェクトが、BASF の種子および種子処理製品、化学的・生物学的ソリューション、デジタルサービスとの包括的な提案を補完する役割を果たします。ピーク時の売上高は 75 億ユーロにのぼる見通しです。2020 年、BASF はアグロソリューション事業セグメントの研究開発に 8 億 4000 万ユーロを投資しました。これは同事業セグメントの売上高の約 11%を占めています。2021 年も高水準の研究開発投資を継続する予定です。

「当社は持続可能な農業を実現するソリューションの提供において業界をリードしています。イノベーション開発に加え、効果的な製品と新しいテクノロジーやサービスを組み合わせ、お客様のニーズや世界各地の様々な作物の栽培方法に沿った、包括的なソリュー

ーションを提供します」と BASF アグロソリューション事業本部プレジデント、ヴァンサン・グロは述べています。BASF は、農業事業において 2030 年を期限とする意欲的なサステナビリティの目標を設定しています。サステナビリティに貢献する農業向けソリューションの売上シェアを毎年引き上げることに加え、作物 1 トン当たりの CO₂ 排出量を 30%削減できるよう生産者を支援します。また、2030 年までに 4 億ヘクタールを超える農地にデジタル技術を導入するとともに、BASF 製品の安全な使用を徹底し、農業・食料システムを発展させるソリューション開発に継続的に取り組みます。「サステナビリティは、当社の研究開発プロセス全体に深く根付いています。生産者が天然資源を保護しながらより多くの質の高い作物を生産することを支援するイノベーション開発を主導します」とグロは強調しています。

生産性が高く、環境に優しい農業を実現する包括的なソリューションの提供

2050 年までに、生産者は推定 97 億人に食料を供給するため、生産性を 50%向上することが求められています。農業のデジタル化はこの達成に大きく貢献する可能性があります。そのため BASF は、他のイノベーションとともに製品ポートフォリオ全体でデジタル技術を強化しています。これらを組み合わせることで、生産者は生物多様性を保全しながら、既存の耕地における収量を増加させることが可能になります。

2020 年 11 月、将来的にスマート農業ソリューションを世界的に販売することを目指し、BASF と Bosch (ボッシュ) は合弁会社を設立^{*2}することに合意しました。関係する反トラスト当局の承認取得後に設立されるこの合弁会社から、年内に「Smart Spraying (スマートスプレー)」ソリューションが上市される予定です。この新しい技術は、雑草を識別して除草剤の正確な散布を実現するため、土地利用の生産性を向上させるとともに、除草剤の散布量を削減することで環境への負荷も軽減します。さらに、新たな成果ベースのビジネスモデル「xarvio[®] HEALTHY FIELDS (ザルビオ ヘルシーフィールド)」は、生産者が合意した収量目標を達成できるよう、圃場とそのシーズンに合わせ最適化された作物保護戦略を提供します。このように、BASF は現代農業の課題、社会の要求、政府の行動計画に対応し、より持続可能な農業の実現に貢献しています。BASF は除草剤耐性のトレイト(形質)とそのトレイトに合わせた化学的農薬の開発をさらに拡大します。雑草を発芽前に抑制するソリューションと組み合わせることで、不耕起栽培が可能になり、土壌からの CO₂ 排出量の削減、土壌流亡の軽減、腐植の集積を促進します。

持続可能な方法で生産された食品への需要増大に対応

BASF は、製品ポートフォリオにおいてより持続可能なソリューションを継続的に強化するため、研究開発の初期段階において、第三者機関の検証を受けた独自の「サステナブル・ソリューション・ステアリング」の手法を適用しています。「農業ソリューションに対する研究開発手法は過去 20 年間で根本的に変化しました。当社は、生産者、社会、環境の将来のニーズに等しく焦点を当てながら、持続可能なイノベーションを成功のうちに推進しています」と BASF のバイオサイエンスリサーチのプレジデント、ピーター・エックスは述べています。

BASF の先進的な殺虫剤ポートフォリオは、「サステナブル・ソリューション・ステアリング」を適用した成功事例の一つです。農業の生産性を高め、環境負荷を低減し、社会に付加価値をもたらすソリューションの提供につながっています。BASF が開発した新規殺虫剤有効成分 Axalion[®](アクサリオン、一般名:ジンプロピリダズ)は、「サステナブル・ソリューション・ステアリング」を利用した最新のイノベーションで、現在、農薬登録に向けて規制当局の承認を待っています。Axalion[®]の新しい作用機構により、生産者は土壌や水産動植物、鳥類に悪影響を与えることなく収穫量を確保することができます。Axalion[®]を使用した製品は、製品のラベルの指示に従って散布すれば、有用昆虫に対する影響は比較的小さく抑えられます。また、この新しい有効成分は殺虫剤の抵抗性管理にも不可欠なツールとなります。その他、BASF の製品で「サステナブル・ソリューション・ステアリング」を用いた開発事例としては、最近南北アメリカとアジアで地域に合わせて製品化された「Inscalix[®](インスカリス)」をベースとする殺虫剤や、世界で初めて南米とアジアで登録を取得した「Broflanilide (ブロフラニリド)」があります。

BASF の新しい種子品種は、生産者が環境に優しい方法で、十分な量の食料を手頃な価格で生産することをサポートします。例えば、最新のハウレンソウの種子は、最も破壊的な真菌病の一つであるべと病に耐性があります。作物の全損を防ぎ、すべてのシーズンに播種が可能であり、有機栽培の生鮮ハウレンソウで大きな市場シェアを有しています。こうした特長は、生産者、加工業者、小売業者および消費者に付加価値を提供します。また、BASF は水耕栽培システムでレタスを栽培するなど、屋内の栽培システムの研究にも投資しています。水耕栽培は従来の土耕栽培に比べて狭い土地で少ない水でも栽培でき、従来の作物保護の必要性が低くなります。また、屋内での栽培技術である

ため場所を問わず、より消費者に近い場所での栽培も可能となり、長距離輸送を回避し、関連する CO₂ 排出量削減にもつながります。

農業分野における BASF のイノベーションパイプラインの詳細については、当社のイノベーションウェブサイト [AgInnovation.basf.com](https://www.basf.com/jp/ja/media/news-releases/global/2020/11/p-20-365.html) (英語) をご覧ください。

*1 <https://www.basf.com/jp/ja/media/news-releases/global/2020/11/p-20-365.html>

*2 <https://www.basf.com/jp/ja/media/news-releases/global/2020/11/p-20-361.html>

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■サステナブル・ソリューション・ステアリング

BASF は、製品ポートフォリオの持続可能性を高めるために、「サステナブル・ソリューション・ステアリング」手法を開発しました。この自主的な評価手法は化学業界特有のものであり、第三者機関による監査を受けています。当社は、2020 年度末までに、関連するポートフォリオの 98.4% に相当する 5 万 7,000 を超える特定の製品アプリケーションの使用について持続可能性分析と評価を実施しました。製品の分類を見える化することで、BASF では製品を体系的に改善し、ポートフォリオ全体を、より持続可能なものにすることが可能となっています。アクセラレータ製品 (BASF のサステナビリティ評価ツールにより、バリューチェーンにおいてサステナビリティに大きく貢献すると判断された製品群) の BASF グループにおける売上は、2025 年までに 220 億ユーロに達する見込みです。また、BASF アグリソリューション事業本部は、明確に定義されたサステナビリティの基準に照らして、透明性を持って製品ポートフォリオ全体を評価しています。同事業本部は、研究開発プロセスの初期段階で、業界をリードするサステナビリティの基準と第三者機関による検証を受けたサステナビリティの基準を統合することにより、研究開発を持続可能性の高いポートフォリオの実現に向けて継続的に推進しています。BASF の「サステナブル・ソリューション・ステアリング」の詳細は、<https://basf.link/SustainableSolutionSteering> (英語) をご覧ください。

■BASF の アグロソリューション事業本部について

世界の人口が急速に増加するなか、持続可能な農業と健康的な環境を作り出して維持する BASF の役割はますます大きくなっています。BASF のアグロソリューション事業本部は、生産者や農業従事者、害虫駆除業者などの皆様と共にこの状況に対応しています。そのため、BASF は強力な研究開発パイプラインや、種子、形質、化学・生物農薬、土壌管理、プラントヘルス、害虫防除、デジタル農業などを含む、幅広いポートフォリオに投資を行っています。研究室や現場、事務所、生産施設に専門家チームを配し、生産者や社会、そして地球のために、革新的な考え方や堅実な行動を組み合わせ、実際に役立つ現実的なアイデアを生み出しています。2020 年、BASF のアグロソリューション事業本部の売上高は 77 億ユーロでした。アグロソリューション事業本部についての詳細は www.agriculture.basf.com/jp または各種ソーシャルメディアをご参照ください。

■BASF について

BASF (ビーイーエスエフ) は、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の 3 つを同時に果たしています。また、全世界で 110,000 人以上の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6 つの事業セグメント (ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション & ケア、アグロソリューション) から成ります。2020 年の BASF の売上高は 590 億ユーロでした。BASF 株式はフランクフルト証券取引所 (BAS) に上場しているほか、米国預託証券 (BASFY) として取引されています。BASF の詳しい情報は、<http://www.basf.com> をご覧ください。